

2015年度

# 株 主 通 信

2015年1月1日～2015年12月31日

BUSINESS REPORT 2015

すべての革新は患者さんのために

中外製薬株式会社

証券コード 4519



左：永山 治会長 右：小坂 達朗社長

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼  
申し上げます。

ここに2015年度の事業の概況をご報告申し上げます。

株主の皆様におかれましては、今後ともなお一層のご  
支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2016年3月

代表取締役会長  
最高経営責任者

永山 治

代表取締役社長  
最高執行責任者

小坂 達朗

## 目次

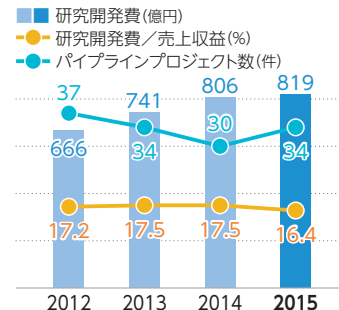
ごあいさつ .....	1	株主様アンケート 集計結果のご報告 .....	7
数字で見る中外製薬 2015年度 .....	2	くすりのはなし .....	9
マネジメントメッセージ .....	3	株主インフォメーション .....	10
特集 新3か年中期経営計画 .....	5	会社の概況／株式の概況 .....	裏表紙



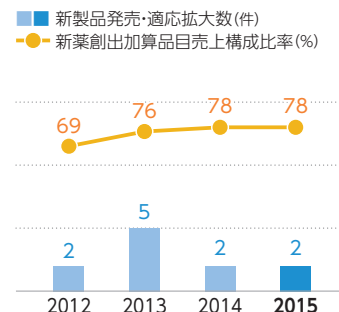
\* Copyright 2016 IMSヘルス  
出典：IMS 医薬品市場統計 2015年12月MATをもとに作成  
無断複製・複写禁止 市場の範囲は中外製薬定義による

## 研究開発ハイライト(Core実績)

### 研究開発費／研究開発費比率／パイプラインプロジェクト数



### 新製品発売・適応拡大数／新薬創出加算品目売上構成比率



## 2015年度トピックス

初期臨床開発強化のため、トランスレーショナルクリニックリサーチ本部を新設

地域社会及び医学・薬学の発展への貢献を目的に創業90周年記念事業を展開

女性活躍推進に優れた企業として「なでしこ銘柄」に選定

ALK阻害剤「アレセンサ®カプセル 150mg」と免疫抑制剤「セルセプト®懸濁用散31.8%」を販売開始

1月

2月

3月

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

第17回 日経アニュアルリポートアワードにおいて準グランプリを受賞

抗悪性腫瘍剤／BRAF阻害剤「ゼルボラフ®」発売

“チーム中外”リレー・フォー・ライフ・ジャパンに参加

社会的責任投資指数「Dow Jones Sustainability Asia Pacific Index」の構成銘柄に2年連続で選定

在宅福祉移送サービスカーを寄贈

# グローバルに飛躍し続ける 企業への変革

代表取締役会長 最高経営責任者

永山 治



## ■ がん領域と骨・関節領域の伸びが牽引し、 想定以上の増収・増益を達成

2015年度の営業状況は、国内・海外の製商品売上高と、ロイヤリティ及びその他の営業収入の増加により、順調に推移しました。連結業績(Core実績<sup>\*1</sup>、以下同)は、売上収益4,988億円(前年同期比8.2%増)、営業利益907億円(同17.3%増)、当期利益649億円(同22.5%増)と、いずれも期初の想定を上回る成果となりました。

国内製商品(「タミフル」を除く)の売上高は、がん領域における新製品や主力品の伸びが牽引し、骨・関節領域も主力品を中心に拡大したことから、3,780億円(同8.2%増)となりました。なお「タミフル」の売上高は減少し、82億円(同36.9%減)となりました。

海外製商品の売上高は、「アクテムラ」のロシュ向け輸出が、円安の影響に加えて数量ベースでも伸長したことにより、822億円(同10.6%増)となりました。

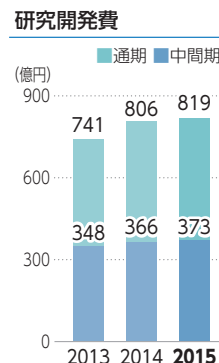
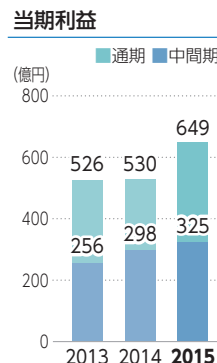
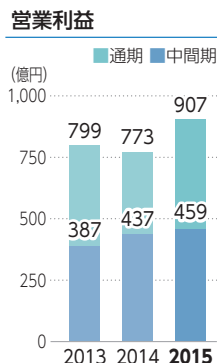
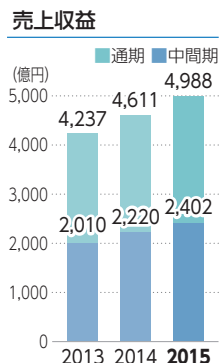
### Core実績連結財務ハイライト (2015年1月1日～2015年12月31日)

**売上収益 4,988億円**  
(前年同期比 8.2%増) ▲

**営業利益 907億円**  
(前年同期比 17.3%増) ▲

**当期利益 649億円**  
(前年同期比 22.5%増) ▲

**研究開発費 819億円**  
(前年同期比 1.6%増) ▲



▶ より詳細な業績の情報は、当社のIRサイト <http://www.chugai-pharm.co.jp/ir> をご覧ください。

中外製薬 IR

検索

## ■「ACCEL 15」の成果により、トップ製薬企業の実現に向けて着実に前進

当事業年度で終了した3か年中期経営計画「ACCEL 15」は、重要変革テーマとして掲げた「営業生産性の向上」「グローバル開発の加速」「革新的プロジェクトの連続創出」「経営基盤の更なる強化」の取り組みにおいて、それぞれ大きな成果を上げ、トップ製薬企業の実現に向けて着実に前進することができました。

また、定量見通しとしてお示した、2012年から2015年までの年平均Core EPS成長率(2012年平均為替レートでの一定ベース)は、当初見通しの「1桁台半ば～後半」を大幅に上回る18.3%に達し、Core EPS配当性向も平均50.3%の実績を上げました。

これらの成果を次に受け継ぎ、グローバルに飛躍し続ける企業への変革を進めるべく、当社は2016年度より新3か年中期経営計画「IBI 18」を始動しました。その詳細につきましては、次頁をご参照願います。

2016年度の連結業績については、別表のとおり減益を予想しています。これは、マイルストーン収入<sup>※2</sup>の減少や、薬価改定の影響や「アクテムラ」の輸出単価が低下することなどを前提に、原価率の悪化を見込んでいるためです。当社は今後、イノベーション競争に打ち勝つための先行投資を実施しつつ、堅実な利益成長に向けた基盤づくりを進めてまいります。

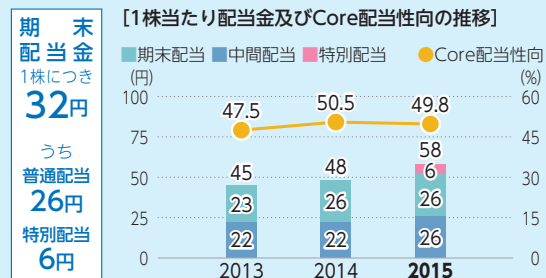
株主の皆様におかれましては、引き続き当社事業への変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

### ☑ 用語解説

- ※1 Core実績  
当社事業の核(コア)である医薬品事業から発生する経常的な収益性を管理するための指標。IFRS(国際会計基準)実績から、当社が非経常的と捉える事象に係る損益等を除いたもの。
- ※2 マイルストーン収入  
知的財産のライセンス先企業等から支払われ、契約内容に応じて生じる一時的な収入。

## ■2015年12月期期末配当について

戦略的な投資資金需要や業績見通しを勘案したうえで、Core EPS対比平均して50%の配当性向を目標に、株主の皆様へ安定的な配当を行うことを目標といたします。2016年3月24日開催の株主総会において、期末配当の実施につき、次のとおり決議いたしました。



## 2016年12月期の予想 (Core ベース)

科 目	2016年1-12月 (億円)
売上収益	4,950
製商品売上高	4,754
ロイヤリティ及びその他の営業収入	196
売上原価	△2,540
売上総利益	2,410
経費計	△1,700
営業利益	710
EPS(=1株当たり当期利益) (円)	92.54

### 配当予想

中 間	期 末
26円	26円



# 新3カ年中期経営計画



がスタート!

## 2010年代後半における トップ製薬企業目標の実現

- 国内大手製薬企業上位3位以内  
(国内シェア、連結営業利益率、ほか)
- 国内戦略疾患領域プレゼンスNo.1
- グローバルプレゼンス拡大

### IBI 18重点テーマ

- グローバルトップクラスの競争力獲得・発揮
- 成長加速への選択と集中

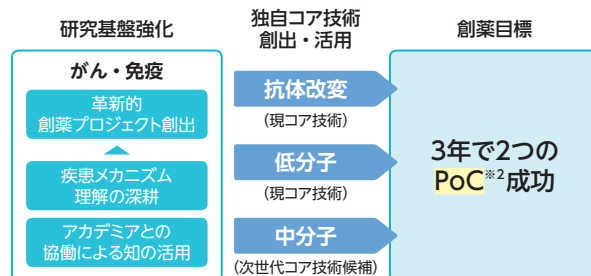
当社は現在、自社研究及びロシュからの導入による多くの有力な新薬候補を有し、これらを成長ドライバーとした大きな飛躍の機会を迎えつつあります。その一方で、新成長ドライバー製品の寄与が本格化するまでの今後数年間は、特例拡大再算定を含む既存主力製品に対する大幅な薬価引き下げにより、売上成長ペースが鈍化することが見込まれます。

このように機会と脅威が交錯する状況のなか、当社は、2016年度から2018年度までを実行期間とする新中期経営計画「IBI 18」を策定、始動しました。「IBI 18」という名称は、計画最終年度の2018年に向けて、“**Innovation Beyond Imagination**”(創造で、想像を超える。)という徹底した革新追求への姿勢を表したものです。

### 1 創薬

#### 革新的技術によるファーストインクラス・ベストインクラス<sup>※1</sup>プロジェクトの連続創出

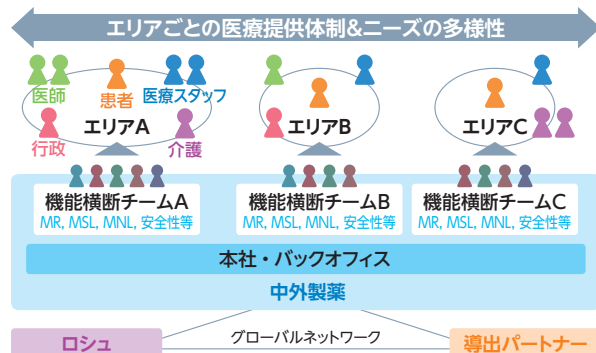
抗体改変プロジェクトの連続創出と中分子創薬技術の確立に注力しつつ、これらを支えるがん・免疫研究の基盤を強化することで、ファーストインクラス・ベストインクラスの開発候補品を連続的に前臨床・臨床ステージへ進めていきます。



### 4 営業・メディカル・安全性

#### 機能間の協業・分業による 高度・多様なソリューションの提供

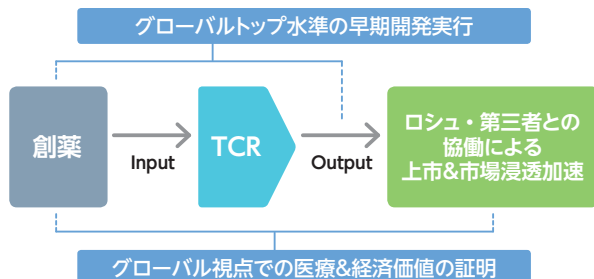
医療提供体制の変化とニーズの高度化・多様化に対応し、成長を実現していくために、成長製品・有力新製品へ集中するとともに、機能横断による高度なソリューション提供とエリア特性に適用した戦略遂行体制の確立を通じて、医療課題の解決へ貢献していきます。



## 2 開発

### グローバルトップクラスのTCR※3・開発による 早期上市・市場浸透の促進

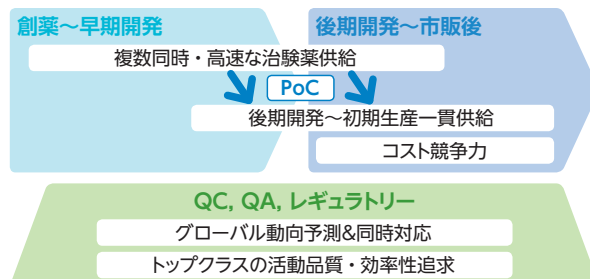
今後の飛躍的成長を担うACE910(emicizumab)とRG7446(atelizumab)の開発を最優先で進めながら、グローバルTCR推進体制のもとスピーディーなPoC取得を目指します。また、開発品の医療上・経済上の価値を証明するプロセスを強化します。



## 3 製薬

### グローバル複数同時開発・高速上市と コスト低減への製薬体制強化

CMC※4開発基盤を充実しつつ、後期開発から市販後までを睨んだコスト競争力の高い供給体制を築き、これらを支えるQC(品質管理)・QA(品質保証)・レギュラトリー(薬事)機能を強化、グローバルでの複数同時開発・高速上市とコスト低減を目指します。



## 5 全社

### 革新創出・環境変化対応の鍵となる 人財の獲得・育成・配置を加速

「創薬」「開発」「製薬」「営業・メディカル・安全性」の4テーマを実現するために、環境変化に対応しイノベーションを牽引する人財を獲得・育成します。全社基盤強化の重要テーマとして、適所適財での配置を進めていきます。



定量見通し

Core EPS 年平均成長率  
(2015年-2018年)

Low single digit ～3%台※

前述のとおり、この3年間は大幅な薬価引き下げの影響を受け、一時的に売上成長ペースの鈍化が見込まれますが、次の成長ドライバーであるemicizumabとatezolizumab、更に充実した開発パイプラインと革新的な自社研究からの新製品を連続的に上市することで、「**2020年代から飛躍的な成長期に入る**」ことを目指してまいります。

※2015年平均為替レートでの一定ベース

## 用語解説

※1 ファーストインクラス・ベストインクラス(First-In-Class/Best-In-Class)  
前者は新規性・有用性の高い画期的新薬、  
後者は既存薬に対して明確な優位性を持つ新薬を指す。

※2 PoC(Proof of Concept)  
研究段階で構想した薬効がヒトでも有効性を持つことを実証すること。

※3 TCR(Translational Clinical Research)  
創薬で生み出された科学的コンセプトを臨床で検証する、前臨床研究からPoCまでの臨床研究。

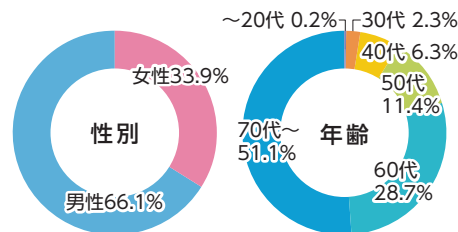
※4 CMC(Chemistry, Manufacturing and Control)  
原薬・製剤の化学、製造及び品質管理。

# 株主様アンケート 集計結果のご報告

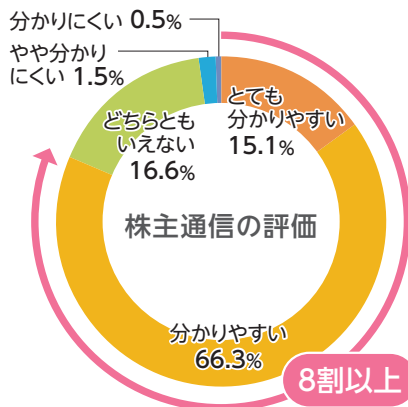
2015年度中間期 株主通信に同封させていただいたアンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

いただきましたご意見の一部をご紹介します。皆様からの貴重なご意見を活かし、IR活動の更なる充実に努めてまいります。

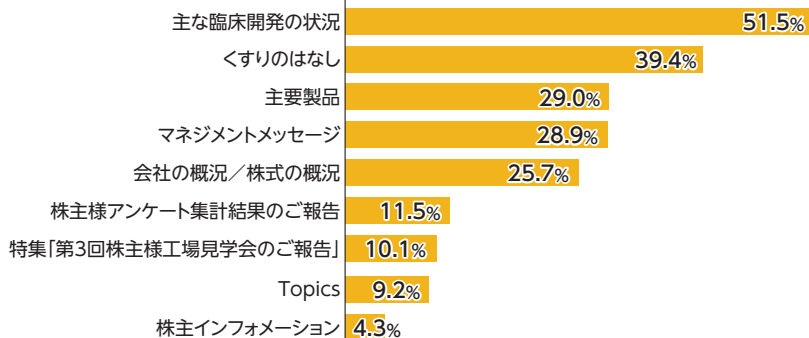
▶ 実施期間：2015年8月31日～9月30日 ▶ 返信数：2,183通



## 株主通信について



### 株主通信で興味を持った記事（複数回答）



### いただいたご意見・ご感想

株主様からの  
ご意見



中外製薬の  
歴史が知りたい。



貴重なご意見ありがとうございます。当社ウェブサイトにおいて「中外製薬がよく分かるストーリー」を掲載しております。P10の「株主インフォメーション」をご参照願います。

Answer



株主様からの  
ご意見



「くすりのはなし」  
はとても参考  
になる。



貴重なご意見ありがとうございます。今回も継続して掲載しております。P9をご覧ください。また、当社ウェブサイトには患者様・一般の皆様を対象に、「くすりのはなし」をはじめさまざまなコンテンツをご用意しておりますので是非ご覧ください。

Answer





## 株主の皆様の 疑問にお答えします!

アンケートにて株主の皆様  
から多く寄せられた疑問・  
質問にお答えします。



## Q 株主優待制度の導入は?

A 当社は、株主の皆様に当社の事業活動をご理解いただき、当社株式を長期に保有をしていただけるよう、業績向上及びさまざまな情報提供活動などを通じて企業価値の向上に努めております。株主優待制度は発行会社への株主様の投資意欲を高める重要な手段の一つとして認識しておりますが、当事業が医療用医薬品の研究・開発・製造・販売等で

あり、事業の特性上導入は難しいこと、また当社の株主構成上、機関投資家や外国人株主の比率が高く、株主優待制度が事実上利用できない株主様も多いことなどから、当社といたしましては配当金等の支払いを中心に株主様への利益還元を行ってまいりたいと考えております。なお当社はCore EPS対比平均して50%の配当性向を目処に、株主の皆様へ安定的な配当を行うことを目標といたしております。

## 第4回 | 株主様工場見学会のご案内

中外製薬の事業内容についてご理解をより深めていただくために、株主様工場見学会を開催いたします。

### 見学会の概要

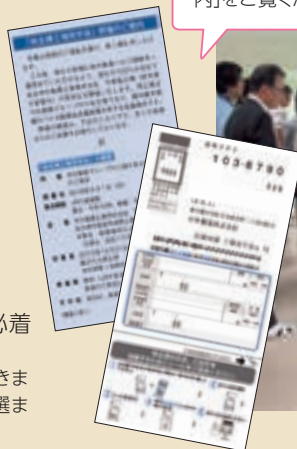
開催日：2016年6月1日(水)

見学場所：中外製薬工業株式会社  
宇都宮工場

応募締切：2016年4月11日(月)必着

\*誠に勝手ながら「抽選」とさせていただきます。  
厳正な抽選のうえ、4月下旬に当選または落選の通知を発送いたします。

詳細は同封した「株主様工場見学会」開催のご案内をご覧ください。



前回の見学会の様子



1万ℓのタンク



# くすりのはなし 10



日常生活の中でお役に立つ“くすりのはなし”。今回は、くすりのタイプ(形)についてのおはなしです。

詳しくはホームページをご覧ください

中外製薬 からだとくすりのはなし

検索

## くすりのタイプ (形)

### さまざまなくすり

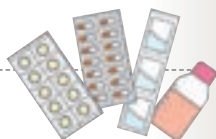
薬には飲み薬や注射薬など、いろいろなタイプ(形)があります。これは病気や症状のさまざまなケースに対応できるようにするためです。

#### 飲み薬

飲み薬には、錠剤、カプセル剤、散剤(粉薬)、シロップ剤などがあります。

飲み薬は主に胃や腸で溶け、十二指腸や小腸で吸収されます。

錠剤・カプセル剤は飲みやすく、持ち運びに便利なおことからもっとも多く使われています。



#### 注射薬

注射薬はもっとも速効性があります。目的によって注射をする場所が異なり、皮内注射、皮下注射、静脈内注射、筋肉内注射に分類されます。

##### ● 皮内注射

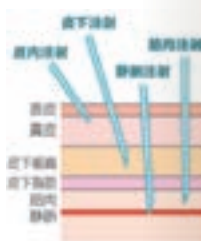
皮膚の表皮とすぐ下の真皮の間に注射します。ツベルクリン反応やアレ르기ー反応など、主に治療ではなく検査のために行われます。

##### ● 皮下注射

皮膚と筋肉の間にある皮下組織というところに注射します。ワクチンやインスリンなどがこの方法をとっています。一般には吸収がゆっくりで、効果が長く続きます。インスリンの中には速く吸収されるものもあります。

##### ● 静脈内注射

静脈内に注射します。もっとも効き方が速く、救急時の緊急処置に使われる場合があります。たくさんの薬が必要な時や、



効果を長時間継続させる必要がある時には点滴静脈注射を行います。一般的には点滴と呼ばれるもので、栄養補給や水分補給などの目的でも行われています。

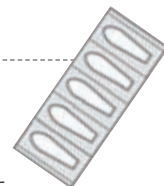
##### ● 筋肉内注射

筋肉内に注射します。皮下注射より吸収が速く、皮下注射では痛みなどが強い薬の時にこの注射が行われます。静脈内注射の次に効き方が速い方法です。

#### 坐薬

坐薬は肛門から挿入して使う薬です。薬の成分が直腸から吸収されるので、胃酸などの影響を受けにくく、効果が速く現れます。また、胃腸障害を起こしにくいというメリットもあります。

子どもの発熱やけいれんに良く使われるほか、がん、リウマチの痛みにも坐薬が使われることがあります。口から薬を飲むことが難しい場合にも適した薬の形です。



#### はり薬・ぬり薬

はり薬・ぬり薬は成分を皮膚から吸収させる薬です。

##### ● はり薬

打ち身や捻挫に使う湿布薬だけではなく、薬の成分が皮膚から血液へとゆっくり吸収されて長く効くという特徴を活かし、狭心症に使われるニトログリセリンや、更年期障害に使われる女性ホルモン、たばこをやめたい人のためのニコチンなどのはり薬にも使われています。

##### ● ぬり薬

主に皮膚疾患などに使われ、軟膏、クリーム、ローション、ゼリー状など塗る場所や目的によってさまざまな種類があります。



# 株主インフォメーション

今後のIRスケジュール  
(2016年)

4月下旬

● 第1四半期決算発表

7月下旬

● 第2四半期決算発表

ウェブサイトのご案内 >>> <http://www.chugai-pharm.co.jp/>

中外製薬

検索



最新のIR情報は  
ここから

CSR活動

中外製薬の  
CSR活動は  
ここから

病気とくすりに  
関する情報や中  
外製薬が取り組  
む活動をご紹介します。

株主・投資家向け情報



新製品開発状況

最新の開発パイプ  
ラインはここから

株主総会  
→ オンデマンド  
動画配信

株主総会のオンデ  
マンド動画配信は  
ここから

中外製薬が  
よく分かるストーリー

中外製薬のことを3つ  
のステップでわかりやす  
くご紹介しています。



## 株主メモ

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎年3月
配当金	期末配当金受領株主確定日 毎年12月31日 中間配当金受領株主確定日 毎年 6月30日
公告	電子公告により行います。 ただし、電子公告によることができない事故、その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行います。

1単元の株式数	100株
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関 (同連絡先)	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
上場証券取引所	東京

単元未満株式  
買取・買増請求制度  
のご案内

当社株式の証券市場での取引は100株単位(1単元)となっておりますため、単元未満株式(100株未満)を市場で売買することはできません。このため、当社では「単元未満株式買取・買増制度」をご用意しております。単元未満株式をご所有の株主様は、是非買取・買増制度のご利用についてご検討くださいますようお願い申し上げます。なお、お手続きはお取引先の証券会社または三菱UFJ信託銀行(TEL.0120-232-711)にお申し出ください。

会社概要

会社設立 1943年 (昭和18年) 3月8日  
創業 1925年 (大正14年) 3月10日  
資本金 72,966,825,723円  
従業員数 7,169名 (連結)  
本店 東京都北区浮間五丁目 5 番 1 号  
本社事務所 東京都中央区日本橋室町二丁目 1 番 1 号

役員 (2016年3月24日現在)

取締役

代表取締役会長 永山 治  
代表取締役副会長 上野 幹夫  
代表取締役社長 小坂 達朗  
取締役専務執行役員 板谷 嘉夫  
取締役専務執行役員 田中 裕  
社外取締役 池田 康夫  
社外取締役 奥 正之  
社外取締役 フランツ・ベルンハント・フーマー  
取締役 ダニエル・オデイ  
取締役 ソフィー・コロノウスキー・ボネ

監査役

常勤監査役 渡辺 邦敏  
常勤監査役 横山 俊二  
社外監査役 原 壽  
社外監査役 二村 隆章

株式状況

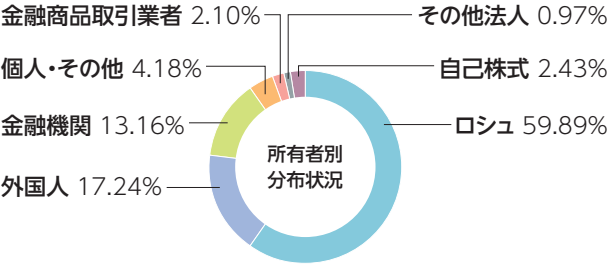
発行可能株式総数 .....799,805,050株  
発行済株式の総数 .....559,685,889株  
株主数 .....25,249名

大株主 (上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
ROCHE HOLDING LTD	335,223	61.39
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	19,857	3.63
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	17,244	3.15
JP MORGAN CHASE BANK 385147	8,495	1.55
JP MORGAN CHASE BANK 380055	6,374	1.16
GOLDMAN SACHS & CO. REG - TREATY 505234	3,660	0.67
STATE STREET BANK WEST CLIENT - TREATY 505234	3,644	0.66
資産管理サービス信託銀行株式会社 (投信受入担保口)	3,594	0.65
東京海上日動火災保険株式会社	3,282	0.60
THE BANK OF NEW YORK MELLON SA/NV 10	3,232	0.59

※当社は自己株式13,641,743株を所有しておりますが、上記の大株主 (上位10名) の中には含めておりません。  
※持株比率は、発行済株式の総数から自己株式の数を控除して計算しております。

株式分布状況



見やすく読みまちがえにくい  
ユニバーサルデザインフォント  
を採用しています。



用紙は、FSC®森林認証紙を使用しています。インキはVOC(揮発性有機化合物)が1%未満のノンVOCインキを使用しています。印刷は有害物質を含む湿し水を使用しない、水なし印刷を採用しています。



すべての革新は患者さんのために



中外製薬株式会社

Roche ロシュ グループ

〒103-8324 東京都中央区日本橋室町 2-1-1  
TEL.03(3281)6611 (代表)